

水稻情報

(第7号)

令和4年8月24日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

- 今年のコシヒカリの出穂期は、平年より早い7月30日頃（昨年より3日程度早め）となったことから、平年並みの気温で推移した場合の収穫適期は9月6日頃と予想されます。
- ほ場ごとに籾の黄化状況を確認して、適期収穫に努めてください。
- 適切な乾燥・調製で、胴割米などによる品質低下を防ぎましょう。

1. コシヒカリの刈取り

胴割米の発生に注意！

- (1) 籾の黄化率が85%になったら収穫を開始し、適期内に収穫を終えましょう。
- (2) 刈取りは、砂壤土や枯上がり早いほ場から始めて、刈遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。

表1 出穂期からみた移植「コシヒカリ」と「てんこもり」の刈取適期の目安

出穂期	7月30日頃(移植コシカリ)	8月2日頃(てんこもり)
刈取適期(目安)	9月6日頃	9月11日頃

※刈取時期が高温の場合、刈取適期幅が短くなるので注意しましょう。
※登熟期間が高温で推移した場合は、刈取適期が早まります。各地域の「刈取適期表示」(刈取始期を表示した表示札)を参考に時期を決めてください。

◎直播栽培においても、刈遅れによる胴割米の発生に注意しましょう！

点線内の籾が黄化したら、
黄化率85～90%程度です。



(枝梗が9本程度の穂を3～4本調査)

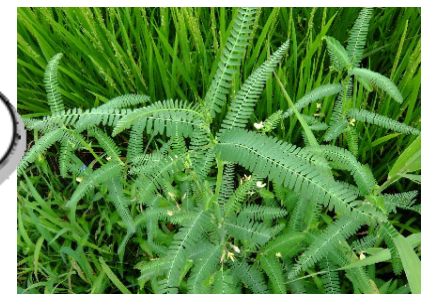
2. 刈取り1週間前まで間断かん水

～最後まで稲の活力を維持しましょう！～

- (1) 刈取りの5～7日前までは「間断かん水」を行い、根の活力を維持して、胴割米の発生を防止しましょう。
※フェーン等の高温が予想される時は、事前に入水する！
- (2) クサネム・ヒエなどの異物混入につながる雑草は、収穫前に必ず抜き取りましょう。



クサネム



3. 適正な乾燥で過乾燥米を防ぐ

～玄米水分は14.5～15.0%に仕上げる！～

【乾燥作業の留意点】

- (1) ヤケ米の発生防止のため、刈取った籾は4時間以内に乾燥機に張り込み、通風しましょう。
- (2) 乾燥前に2～3時間程度、常温での通風循環を行いましょう。
- (3) 乾燥ムラを出さないため、二段乾燥(籾水分が17%台になったら一時中断し、水分を均一にする)を行いましょう。
- (4) 青米の混入程度を確認し、表2を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょう。

表2 乾燥機の停止水分判定の目安

100粒中の青米数	乾燥機の停止水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.0～15.5%	乾く (-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる (+0.5%)

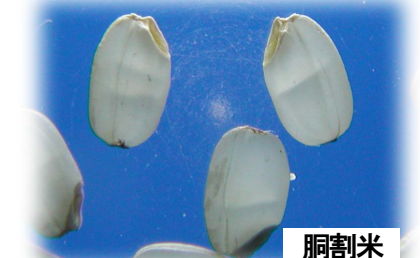
※玄米水分が17%を切ったら、手動水分計でこまめに測定しましょう。

【調製作業の留意点】

- (1) 籾摺りは、乾燥後2～3日置いて玄米水分を均一にしてから行い、肌ずれ米の発生を防ぎましょう。
- (2) 選別は1.9mmの篩目を使用するとともに、機種ごとの適正流量を守り、完全粒歩合を高めましょう。



こんなことにならないよう気をつけてくださいね！



胴割米

※米卸業者からは、軽微な胴割れも防ぐことが求められています！！

「事前点検でコンバイン事故などを防ぐとともに、秋も熱中症予防に取り組みましょう！！」

秋の農作業安全運動期間 8月20日～10月20日

うら面に続く

令和5年産米に向けて！ 美味しいあおば米は、まず土づくりから！！

管内の土壌中ケイ酸は不足しています！ 改善に向けて取り組みましょう。

1. 土づくり資材の施用

～地力向上のため、施用を継続しましょう！～

- (1) アルカリ成分を含むケイ酸質資材を毎年、適正量を施用しましょう。
- (2) 土壌pHが低いとカドミウムが吸収されやすくなります。カドミウムの吸収を抑えるため、土壌pHは6.0～6.5を目標に施用を継続しましょう。
- (3) 籾殻、わらはは重要な土づくり資源です。絶対に燃やさず、すき込みましょう。
- (4) 営農組織や集落単位で、効率的な土づくりに取り組みましょう。

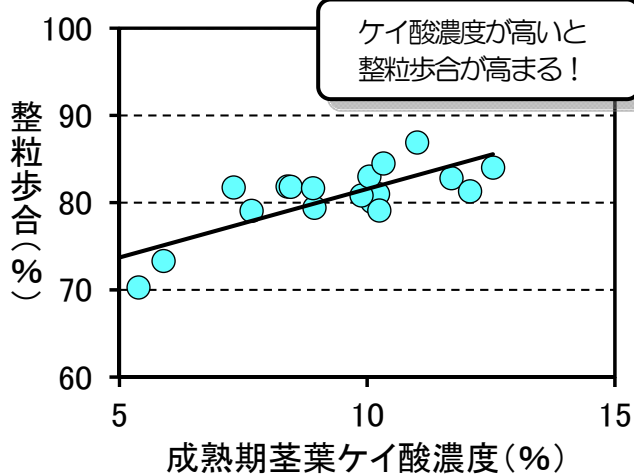
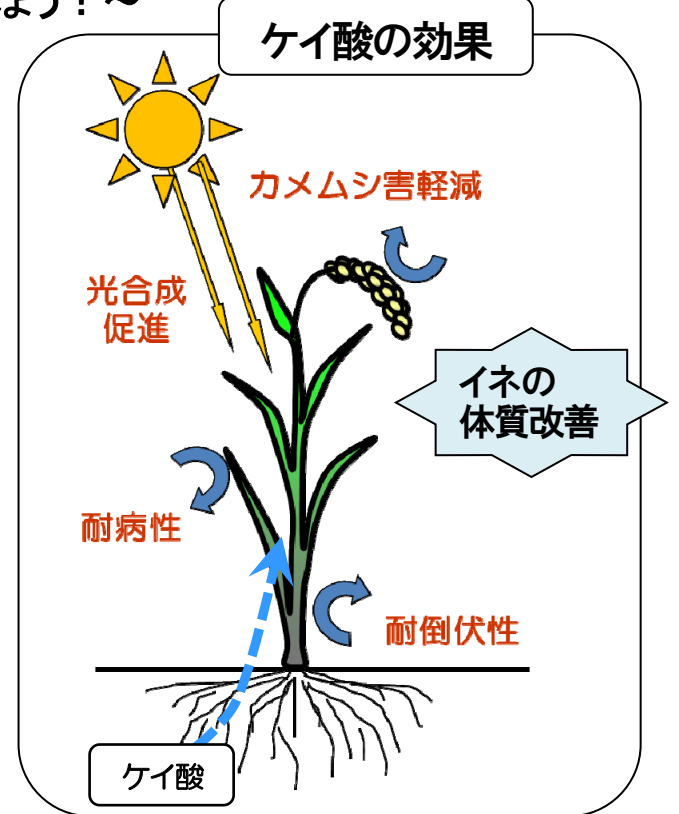


図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

- ケイ酸の施用により
- ① 高温条件でも品質が安定
 - ② 倒伏に強くなる
 - ③ 割れ籾の発生を抑え、カメムシによる被害が軽減される
 - ④ いもち病などの被害が低減



【土壌改良（ケイ酸&アルカリ分）資材の施用の目安】

JAあおばでは、ケイ酸質資材の購入代金に対して、1%の助成があります。是非ご活用ください。

資材名	施用量 (kg/10a)	主な成分	ポイント
あおばフミンエース	100	ケイ酸 22%、アルカリ分 30%、鉄 11.7%、苦土 2.5%、腐植酸 10%	ケイ酸や腐植を含む、各成分をバランスよく配合した、高機能土づくり資材。
スーパーケイサン+	90	ケイ酸 40%、アルカリ分 25%	ケイ酸含有量が高く、pHも矯正。
シリカロマン	100	ケイ酸 25%、アルカリ分 45%、リン酸 5%、鉄 5%、苦土 7%	ケイ酸、リン酸を補給、pH矯正効果が高い。
有機加里入 シリカロマン	100	ケイ酸 20%、アルカリ分 36%、リン酸 5%、加里 4%、鉄 4%、苦土 5%、有機 20%	シリカロマン+有機物・く溶性カリ。カリ・リン酸を秋・春先に省力散布。
鶏果良好	100	ケイ酸 26.5%、アルカリ分 26%、リン酸 3%、加里 5%、苦土 1.5%	カリ・リン酸を秋・春先に省力散布。ケイ酸・カリを補給。pHも矯正。
グリーンウェイブDX(ペレット)	90	ケイ酸 24.9%、腐植 19.8%、チッソ 1.45%、石灰 9.13%、リン酸 3.56%、加里 2.47%、その他微量元素	カリ・リン酸を秋・春先に省力散布。ケイ酸、腐植、微量元素を一挙に施用。

※上記の他にも土壌改良資材を各種取り揃えていますので、各地区営農経済センターへご相談ください。

2. 有機物の活用

～有機物の散布で保肥力の向上！！～

- (1) 牛ふん、豚ふん、籾殻堆肥や発酵鶏ふんの散布に努めましょう。
- (2) 堆肥が確保できない場合は、地力増進作物を作付け、すき込みし、腐植を増やしましょう。

【堆肥】(秋施用)

堆肥名	散布量(10a当り)
牛ふん堆肥	1～2t
豚ふん堆肥	
籾殻堆肥	2t
発酵鶏ふん	75～105kg

【地力増進作物】(秋播き)

<ヘアリーベッチ>

品種	晩生品種
播種時期	9月下旬～10月上旬
播種量	4～6kg/10a
すき込み時期	4～5月

転作(大豆、ニンジンなど)の前作におススメ！！



ヘアリーベッチのすき込み

富山県土づくりスローガン
いざ土づくり！
美味しい富山を届けよう！

3. 深耕で作土層を拡大

～根を深く伸ばし、稲の活力を向上！～

- (1) 耕起時は、トラクターの作業速度を落とし、作土深15cm以上を確保しましょう。
- (2) 秋耕後は、排水溝(深さ20cm以上)を設置し、排水口と連結しましょう。

秋の土づくり運動

期間 9月15日～11月15日

